

「住吉の語り部となりたい」 シリーズ第11回

料亭つたも主人・深田正雄

2012年2月22日

道楽三昧できた最後の旦那衆・深田良矩

海部郡蟹江の須成・大ダンナで明治26年より村長職を務め、須成祭のスポンサーであった深田錬輔の嫡男として良矩は明治21年2月10日生まれ、津島にある愛知三中に入学、当時の新しい西洋スポーツ野球部を設立キャッチャーとして活躍していたようです。恵まれた大地主の惣領として、中学の卒業祝いは別当（馬の養育担当）付で乗馬用の馬だったと聞いています。そして、ハイカラな英国紳士に憧れ、狩猟のためにセミオート散弾銃レミントンなどを揃え、山鳥・雉をゲームとするハンティングを趣味として猟犬と共に山野を駆ける毎日を楽しんでいたようです。



写真：岐阜谷汲での山鳥猟・水平二連26インチ・レミントン銃とともに若き英国紳士気取り？・祖父・深田良矩

神田雷蔵とともに名古屋伊勢町にて金融ブローカーとして活躍するヨーロッパ貴族まがいの良矩は乗馬と狩猟をこよなく愛し、自分の接待所として現地の住吉町に料亭蔦茂を大正2年に開業、日露戦争、第1次世界大戦の勝利と日本の殖産振興とともに絶頂期を過ごしていたようです。大正4年3月には父、錬輔の死亡にともない須成深田家の家督を相続

し大いなる資産を背景に幅広く事業を広げ、名古屋の芸妓数十人に座敷相撲を取らせる旦那として話題の遊興人であったようです。

しかしながら、昭和2年の金融恐慌により神田銀行破産に伴い連鎖倒産、そして、良矩は須成深田家から勘当・個人破産全てを精算、債権者から逃れるためにもお抱えの人力車引き車夫の実家のある谷汲華厳寺の麓・長瀬地区で数年疎開？生活、今度は馬と鉄砲に加え根尾川水系で溪流釣りマスターして大自然と共生きを満喫していたようです。

事業整理に伴い、表面上離婚した妻・山田静江（明治25年生）がマイナスから商人宿として蔦茂旅館を再建、細腕繁盛記さながら頑張っている店に祖父はほとぼりが冷めた頃の下足番として戻ってきました。祖父曰く、玄関で下駄を揃えていたら、昔の仲間は寛大だったゾ！「まあ、せいぜい奥さん孝行しろよ！借金チップ代わりにゆるいたるがや……」本当かな???

女将の静江は夫の道楽を愚痴もいわずずっと認めていたようで、祖父は乗馬と狩猟費用は宿銭の売上から捻出していたようです。この趣味は長男の正矩（小生の父）にも受け継がれ第二次大戦後は一緒に溪流釣りを含めた蔦茂3種道楽を楽しんでおりました。



写真：昭和35年11月1日初猟・鴨65羽

前年の伊勢湾台風で周辺の水田が刈入れ前に全滅、稲を求めて日本中の鴨が伊勢湾に！その翌年もシベリアから多くの渡り鳥が名古屋沖に舞い戻り、記録的な大猟となりました。深田父子と船頭・精海丸の伊藤さん

そして、乗馬馬アルプスを名城西の土居下、栗田厩舎に委託して毎朝、住吉の蔦茂から近隣を並足で鶴舞公園まで散策を道路が舗装される昭和30年頃まで継続、その後は、厩舎の森林公園移転に伴い車で馬場まで赴くダンナ業をさせてもらっていました。当時、一般の月給が1万円以下の頃、馬の飼葉代・つまり委託料は毎月4万円でした。

本当に良くできた静江女将で、道楽爺さんを最後まで好きなことをさせていましたが、珠に、ガールフレンドができると雷が落ちていたような記憶がございます。

こんな爺さんは内孫の正雄君が可愛くて・・・毎朝、おじいちゃんと乗馬した後に近くの白川幼稚園に通っていました。



写真：アルプル2世に乗る祖父深田
良矩と正雄ちゃん

鶴舞公園にて昭和28年ごろ

当時、公園の一部は進駐軍に接収中、
ゴルフ場があった記憶があります。

返還後のコニーアイランドショーと
いうアメリカ遊園地は楽しかったで
すね。

次号に続く